

有機質肥料と肥効調節型肥料の組み合わせによるトマートの化学肥料50%減肥栽培

福島県農業試験場農芸化学部
平成17年度試験成績概要

- 1 部門名 野菜—トマト—施肥法
分類コード 03—04—13000000
- 2 担当者 中村孝志、太田弘志
- 3 要 旨

トマト夏秋雨よけ栽培(「桃太郎8」、自根)において、有機質肥料(有機アグレット666特号)と被覆肥料(スーパーロング424)を窒素成分で50%ずつ(15kg/10a相当)組み合わせ、追肥を省略し、化学肥料の窒素を50%削減する栽培について検討した。

(1)有機質肥料+被覆肥料区(追肥なし)の生育は、化学肥料(基肥+追肥)のみの対照区と比較して同等かやや劣り、窒素吸収量は若干減少した。

(2)有機質肥料+被覆肥料区の果実収量は、対照区とほぼ同等であった。

(3)被覆肥料の施肥位置(全層施肥と局所施肥)及び溶出タイプ(70日タイプと100日タイプ及び100日タイプと140日タイプの組み合わせ)の違いによる生育、収量の差は少なかった。

(4)有機質肥料+被覆肥料区の小葉葉柄汁液の硝酸濃度は、対照区とほぼ同様な推移をした。

(5)以上のことから、有機質肥料と肥効調節型肥料の組み合わせにより、追肥を省略し、対照区より少ない窒素吸収量で同等の果実収量を確保するトマトの化学肥料50%減肥栽培が可能であった。

- 4 その他の資料など